

授業科目名	異文化間コミュニケーション			担当教員	力武 由美	
開講年次	1年後期	セメスター	2	時間数(単位数)	30 (1)	
必修選択	選択	授業形態	演習	使用教室		
授業の目的	外国の大学生と合議する経験を通して、異文化に対する観察力・想像力および自文化への内省と分析力を涵養する。併せて、英語学習の動機を高める。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際的文脈でコミュニケーションをする力を伸ばすための学習技能を活用することができる。</li> <li>2. コミュニケーションにおける文化の役割と影響について知り、それに配慮するための行動と態度を取ることができる。</li> <li>3. 複数の人々と協力して、「適切な発表の準備と実行」を行う能力と態度を取ることができる。</li> <li>4. 体験を内省し記録することを通して、内省から新たな目標を認識する態度と能力を活用することができる。</li> </ol>					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	研修準備1：目標および活動内容の確認と計画	講義	(復習として) 授業で、海外に出る上での基本的手続きと学習活動内容を確認し、必要な準備を認識する。それに基づいて、発表および交流活動準備の計画を立てる。	2時間	力武	
2	研修準備2：発表主題探索	演習	(予習として) 相手国の学生との活発な議論を誘発すると思われる話題や論点を考え、情報を収集して、主題案を構想する。	3時間	力武	
3	研修準備3：主題および論点決定	演習	(授業で) 主題を決定し、議論の展開を予測して含める情報の内容と構成を考える。(復習として) 具体的な発表および資料を作成する。	3時間	力武	
4	研修準備4：発表案の検討	演習	(授業で) 発表の案を他のグループに示し相互にコメントする。(復習として) コメントに基づいて修正する。	3時間	力武	
5	研修準備5：発表・挨拶予行	演習	(復習として) 予行で明らかになった問題に対し必要な修正を行う。更に練習を積む。	2時間	力武	
6	研修活動1：開講式、自己紹介など	演習	(復習として) 印象、活動結果、所感を記録する。	1時間	力武	
7	研修活動2：発表 A および QA	演習	(復習として) 印象、活動結果、所感を記録する。	1時間	力武	
8	研修活動3：発表 B および QA	演習	(復習として) 印象、活動結果、所感を記録する。	1時間	力武	
9	研修活動4：発表 C および議論	演習	(復習として) 印象、活動結果、所感を記録する。	1時間	力武	
10	研修活動 5：発表 D および議論	講義活動	(復習として) 印象、活動結果、所感を記録する。	1時間	力武	
11	研修活動 6：発表 E 準備	研修活動	相手国の学生と協同して、発表 E を構成する。	3時間	力武	

12	研修活動 7：発表 E および議論	研修活動	(復習として) 印象、活動結果、所感を記録する。	1 時間	力武
13	研修活動 8：閉講式など	研修活動	(復習として) 印象、活動結果、所感を記録する。	1 時間	力武
14	内省と記録1：報告書計画、共同活動についての内省	演習	(授業で) 班および全体としての活動に関する内省を共有する。報告書の構成と編集方法を定める。(復習として) 班としての報告文の分担部分および個人としての報告文を作成する。	3 時間	力武
15	フィードバックと記録2：個人の内省の共有	演習	(授業で) 個人としての報告文に対して相互にコメントする。(復習として) 必要な修正を行い、完成させる。報告書の原稿を編集する。	3 時間	力武
先行履修科目					
テキスト	指定しない。				
参考文献	E.T. ホール (訳: 國弘正雄、長井善見、斎藤美津子): 沈黙の沈黙のことば, 南雲堂, 1966 年. リチャード・ルイス (訳: 阿部珠理): 文化が衝突するとき, 南雲堂, 2004 年. エリン・メイヤー (監訳: 田岡恵、訳: 樋口武志): 異文化理解力, 英治出版, 2015 年. 井上逸兵: 伝わるしくみと異文化間コミュニケーション, 南雲堂, 1999 年. 金子光茂、リチャード・H・シンプソン: 英語脳の鍛え方, 南雲堂, 2010 年. 久米昭元・長谷川典子: ケースで学ぶ異文化コミュニケーション, 有斐閣, 2007 年. 八代京子他: 異文化トレーニング, 三修社, 2009 年.				
科目の位置づけ	「国際」「人間」「環境」に関連した科目である。 また、異なる文化を持つ人とのコミュニケーションには、ストレス、ショック、摩擦など様々な状況に直面するが、それらの障害をいかに乗り越えるか、「問題解決力」を養う科目でもある。				
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力
		○		◎	
評価方法	準備活動における積極的参画と役割実行とプレゼンテーションの完成度 (30%) 研修場での役割実行と国際交流への積極的参画とプレゼンテーション等のパフォーマンスの完成度 (30%) 研修後の役割実行 (10%) と記録内容・レポートの完成度 (30%)				